

七五三ってなに？

もうすぐ七五三の季節。早めの準備が肝心です！

ところで、なんでお祝いするのか、どんなマナーがあるのか、ご存知ですか？
今回はちょっとだけピックアップして「七五三」情報をお届けします！



●七五三のはじまり

七五三は、幼い子ども達を社会に迎える・子どもが無事に育ったことを祝う意味で、江戸時代の武家社会において行われていました。明治時代から一般家庭にも徐々に定着して現在に至ります。

●七、五、三歳の理由

子供の生存率が今ほど高くなかった時代、三歳まで生き延びることが大変で、「子どもは七歳までは神様の預かりもの」という考えがありました。そのため三歳、五歳、七歳を節目に子どもが無事に育ったことを祝い、その先の健やかな成長を祈る儀式として神社や氏神にお参りをします。

●七五三のお祝い

・お祝いをあげる

紅白の水引きを蝶結びにしてのしを付けます。表書きは「七五三御祝」や「御祝」となります。お祝いを贈る時期は、11月初めから当日までに届くようにします。(特に遠方の場合)

・お祝いをいただいた

本来お返しは必要ありませんが、お返しをする場合は七五三の写真を添え、お赤飯(持参できる場合)や千歳飴、菓子折り等が良いでしょう。遠方には11月中には届く様にします。表書きは「内祝」とし、子供の名前を書きます。この場合も水引きは蝶結びです。

●神社に謝礼を納める

表書きは「御初穂料」や「御玉串料」とします。名前は子どもの名前でこの場合も水引きは蝶結びです。神社への謝礼は三千元から一万円位の範囲です。※地方によって習慣が異なります。

●七五三の伝統的な儀式

今ではほとんど見かけなくなりましたが、以前は下記の儀式が行われていました。

- ・三歳(男女)：髪置の儀(かみおきのぎ)
髪を伸ばし始める
- ・五歳(男児)：袴着の儀(はかまぎのぎ)
初めて袴を着ける
- ・七歳(女兒)：帯解の儀(おびときのぎ)
帯を使い始める